

社会福祉 しずおか



特集 福祉専門職による災害時要配慮者支援の取組

福祉のまちづくり絵画コンクール優秀作品を紹介します(平成29年度)

テーマ やさしさでつながる福祉(しあわせ)のまち



★静岡県商工会連合会長賞
沼津市立香貫小学校(4年) なかの けんいち 中野 賢一 さん
「地域で交流」
まず、コミュニティで交流の“和”を広げよう。



★静岡県経営者協会会長賞
裾野市立富岡第一小学校(1年) かつまた ちさ 勝又 千紗 さん
「みんななかよし」
病気で左手と左足が動かなくなってしまったじいじを家族のみんなが支えているところを書きました。家族のみんなはじいじが大好き。仲よく協力して楽しく過ごしているところを表しています。

※学校名、学年は平成29年度のものであります。

編集発行



社会福祉法人静岡県社会福祉協議会

〒420-8670 静岡市葵区駿府町1番70号 電話.054-254-5248 FAX.054-251-7508 <http://www.shizuoka-wel.jp>
E-mail spcsw@shizuoka-wel.jp

※本機関紙は皆さまの会費を充当し発行しております。

福祉専門職による 災害時要配慮者支援の取組

特集

近年、国内では甚大な被害をもたらす災害が各地で多発しています。東日本大震災以降、災害発生後の避難生活により、心身の状態や持病が悪化して命を落とす、いわゆる「災害関連死」が注目されています。この災害関連死を防ぐ取り組みの一つとして、福祉専門職でチームを編成し避難所等で活動する「災害派遣福祉チーム」が全国各地で発足しています。静岡県でも昨年度に静岡県災害派遣福祉チーム（以下、静岡DCAT）が誕生しました。

平成30年7月豪雨災害においては、本県を含めた複数のチームが岡山県倉敷市で活動しました。今号の特集では静岡DCATについて取り上げ、静岡DCAT登録員や関係する方々からの報告と、倉敷市での支援活動についてお伝えします。

※災害派遣福祉チームの略称は、各都道府県でDCAT (Disaster Care Assistance Team) 又はDWAT (Disaster Welfare Assistance Team) と呼ばれています。



「静岡県災害派遣福祉チーム（静岡DCAT）」とは

静岡DCATは、福祉施設等に勤務する社会福祉士や介護福祉士、介護支援専門員、保育士等の福祉専門職5名程度で編成されるチームです。災害発生後5日目から1ヶ月程度を活動期間として、被災自治体からの派遣要請に基づいて、避難所等で保健師や看護師の医療系支援者と連携を取りながら、高齢者や障がい者、乳幼児



等、「災害時要配慮者」と呼ばれる方の福祉ニーズや困りごとを福祉専門職の視点で把握し、適切な支援につないだり、避難生活の環境改善の提案を行ったりします。静岡DCATは災害発生後の支援活動だけでなく、平常時には県内各地で、自治会や自主防災組織が行う避難訓練や防災講座に参加したり、民生委員児童委員協議会の研修会で出張講座を開いたりして、日ごろから災害に備えた地域のコミュニティ作りのお手伝いを積極的に実施しています。

昨年度、職場の園長より「こういう研修があるから、参加してみろ？」ということでも平成29年度第2回静岡DCAT登録員養成研修に参加しました。アルファベットのDCATが何を意味しているのかも、あまりよくわからないまま研修に参加したことが正直なところです。養成研修は座学で災害関連死を防ぐ為、災害が発生した避難所内での①福祉的トリアージ（ニーズ把握）②環境整備③移送支援④医療連携などをチームで行っていくということを中心に学びました。演習では実技での移送支援、避難所運営ゲーム（HUG）なども行いHUGでは机上であっても慌ててしまう中で、実際の災害時を想像すると怖くなってしまいう思いました。



「静岡DCAT登録員として」
社会福祉法人天心会
ぶつきみのる
福貴 稔 氏

研修を受講以降、職場内研修や地域向けのイベントなどで、静岡県経営協から無償貸与を受けた移送支援用具の体験会などを行いました。地域住民の方からは用具に関することや災害に関する質問も出て、災害への備えや意識も高いと感じ、平常時での顔が見える関係作りにも繋がりました。また、静岡市内で宿泊訓練やリアルHUGを行っている方々が開催する防災訓練の実行委員会への参加など、静岡DCATをきっかけに今までに関わりが薄かった方々とも「防災」というキーワードで繋がりを持たせていただき、ありがたく感じています。

昨今の異常気象や地震大国の日本において静岡もいつ被災地となるかは分かりません。また静岡だけでなく今回の平成30年7月豪雨災害のように広域に渡ったの災害時などでもいかに迅速に、また継続的に動けるかという部分では家族や職場の理解を得る必要も出てくると思います。自分も普段の仕事の中でも身軽に動けるよう業務を見直し、「困ったときはお互い様

という当たり前のことをより実践していけたらと感じています。

「施設として静岡DCATに

期待すること」



社会福祉法人函要会
特別養護老人ホーム施設長
安河 章 氏
あがみ かつあき

静岡県は東南海地震が叫ばれて30年以上、阪神淡路大震災から20年以上も時が経ち、自分も含め地震に対する意識が薄れていると感じている中、熊本地震や西日本豪雨から他人事ではないと感じました。

静岡DCATに職員を登録しようと思った主な理由は、DCATの経験により将来的に地域防災にも役に立ち、法人職員の防災への意識をより強くできると思ったからです。このような積み重ねが今後の特養の地域における役割になると考えました。消防や警察、学校等との連携も視野に入れる必要があると思います。更に静岡県老人福祉施設協議会における特

養間の防災協定の活性化に繋がることを期待しています。

自施設所属登録員に今後期待することは、DCATの存在価値がどうすれば伝わるかを真剣に考え実践して欲しいということだと思います。まず地域のハザードマップを熟知する必要があります。施設の防災委員会を中心にそこから地域を深く知ることができそうです。地域住民や職員だけでなく、デイサービスやショートステイ、配食サービスで関わる職員を交えて危険であると予想される場所をあらかじめピックアップする必要もあるでしょう。また、インターネットを使って天気図や雨雲レーダーを上手に読む技術も必要です。それにより避難の必要の有無や、避難のタイミングが予想できれば安心につながります。今回の西日本豪雨の現場で実践することが非常に意味のある経験になると思います。

施設として今後考えているDCATに関する取り組みは、派遣経験を災害に対しての向き合い方を適切な言葉で法人職員だけでなく、地域住民すべてに伝えきるこ

とが重要です。区長会や小中学校に向いての伝達も必要だと思えます。熊本地震や関東豪雨、突然の地震だけでは無いということ。特に大型化する台風、今までの経験からでは予想できない豪雨、またそれに伴う河川の増水、決壊による災害等、想像を超えた災害に向けて「気持ち」を準備する必要があります。そういった意味では、介護職と同じレベルでDCATに専門性を持たせる必要があると思いますし、施設職員の防災に対する再教育も必要と考えています。

「静岡県災害派遣福祉チーム（静岡DCAT）」研修会に参加して



御前崎市民生委員児童委員協議会 副会長
あがた みさお
阿形 操 氏

7月上旬、西日本を中心とする豪雨災害が発生しました。被災されました皆様には、謹んでお見舞いを申し上げると共に二日も早い復興

をお祈りしています。また、近年、全国各地で大小の地震が発生しており、日本は地震活動期に入った可能性があるとも言われています。

私たち民生委員児童委員は、このような大規模な自然災害や地震に対して、地域の自主防災会の一員として、災害に備えなければなりません。その活動は平常時の活動がきわめて大切であると言われています。

御前崎市では、本年5月10日

(木)に開催されました御前崎市民生委員児童委員全体研修会で、「静岡県災害派遣福祉チーム(静岡DCAAT)」の皆様を講師に迎えて防災研修会を行いました。

今回の研修では、前半部分に静岡DCAAT設立の趣旨、組織、支援内容、日頃の活動内容などの紹介がありました。大規模災害の経験がない私たちは、避難者、特に災害時要配慮者支援に関わることで気が付かないことや、分からないことが多くあるのが現実と思います。福祉や介護の専門職で構成する静岡DCAATメンバーか



ら、心身にハンディのある方や子どもとの接し方を学ぶことができました。ことは、大変参考になりました。

後半部分では、紙や布で作成した担架の紹介と使い方を学ぶ体験講座を行いました。コンパクトにたためてスペースをとらない為、必要となるに手軽に配置出来、すぐ使える効果があると感じました。また、車いすを人力車のようにして引張る装置をつけての移送支援体験などを行いました。車いすでの移送には補助者が両手で押す力が必要なのに、今回の体験では体全体で引張ることが可能

で、長距離の移動も困難ではなさそうに感じました。既存の物を工夫次第で有効に使えることがよく分かりました。

このように静岡DCAATの活動は、避難所等で要配慮者などの支援に関わる事を平常時から学ぶことが出来るもので、多くの皆様を知っていただき取り組む必要を感じました。「災害時避難行動要支援者避難支援計画」とともに災害弱者への支援が効果的に実践できるよう、行政、自主防災会とともに相互に連携して、地域の皆様が安心して暮らせるまちづくりを努力していきたいと思えます。



「静岡DCAAT活動に対する行政との連携で期待すること」



静岡市役所
健康福祉部福祉総務課
かわさき しんすけ
川崎 真輔 氏

静岡市では「自助」「共助」「公助」の観点から庁内各課において災害対策に取り組んでいます。当課においては、災害時要援護者支援事業として、災害時要援護者名簿の作成や福祉避難所の体制整備など、要配慮者への支援体制づくりを進めています。

災害時の要配慮者支援の重要性は近年益々強調されており、福祉的課題を多く抱えている要配慮者の二次的な被害(状態の重度化、関連死など)の発生を防ぐべく、避難困難者の支援や福祉的配慮のされた避難所運営などが求められています。一方、支援者のマンパワーの確保が課題とされており、対応策が求められています。

その課題を解決すべく「公助」を補い、「自助」と「共助」を支え

ていく存在が静岡DCATであると考えています。多様なニーズを抱えた要配慮者の中には、様々な理由から自らの大変さや辛さを表現できない方も多くいらっしゃると思います。そのような方々に寄り添い、現場レベルで専門性の高い福祉的支援を行うことのできる存在としての活動を期待しています。

また、平常時においては「お互いに顔の見える関係」を行政や地域と築いていただくことを期待しております。静岡DCAT登録員は主に県内の福祉施設等の職員であり、登録員同士のネットワークを使うことで各自自治体や地域住民と接点を持つことが可能であると考えています。結成して1年余りというこの時期にこそ、その存在と意義をさらに周知していただくとともに、地域での防災訓練や研修会など、様々な場面において行政や地域との協働を積み重ね、地域に根付いた組織として防災の一翼を担われることを期待します。

倉敷市立菌小学校での
静岡DCAT支援活動

7月17日付文書にて、岡山県知事から静岡県知事に静岡DCAT派遣要請がありました。この要請に基づいて静岡DCATは、7月24日から8月5日までの間、倉敷市立菌小学校に3チーム、合計12名を派遣し、12日間の支援活動を行いました。今回の活動がチーム発足後、初めての派遣となりました。



7月下旬の菌小学校では、約250名の方が避難所生活を送っていました。静岡DCATは、岡山

DWATを中心に医療・保健の支援者と連携して、避難所内を巡回して支援が必要な方を把握したり、埃による感染症リスクから体育館内を守るために出入り口の清掃や整理整頓をして生活環境を整えたり、体育館内に「なんでも相談コーナー」を設置し、避難所生活や今後の生活に関する相談や悩みを聞き、必要な情報を提供する活動などを行いました。

また、避難者同士が集まって会話が出来る場所がなかったため、福祉チームから支援関係者や避

難所運営者に提案し、教室の一室を借りて「集いの場」を開設しました。誰でも自由に出入りして、お茶を飲みながら会話をしたり、食事をしたりすることが出来る場所を作り、話を聞きながら必要な支援について情報把握に努めました。静岡DCATが活動を終了した後は、岡山DWATとぐんまDWATに引継ぎをして活動が続けられ、災害派遣福祉チームとしては9月2日までを活動期間としています。(本原稿執筆時点の情報)



「平成30年7月豪雨」に係る被災地支援 活動報告

西日本を中心に広い範囲で甚大な被害が発生した「平成30年7月豪雨」への対応として、静岡県社協では、県内市町社協及び施設関係者の協力を受け、下記の支援活動を行っています。

1 呉市災害ボランティアセンター運営支援

期 日	内 容
先遣隊 7月11日(水) ～13日(金)	先遣隊2名を派遣(県社協、静岡市社協) 活動資機材(一輪車30台、スコップ200本、バケツ30個など[赤い羽根共同募金助成])、 飲料水(60箱/720L)の輸送及び呉市災害ボランティアセンターの運営支援
先遣隊 7月13日(金) ～15日(日)	第2次隊2名を派遣(県社協、浜松市社協) 活動資機材(一輪車20台、スコップ200本、バケツ30個など[赤い羽根共同募金助成]) の輸送及び呉市災害ボランティアセンターの運営支援



職員派遣 7月17日(火) ～10月1日(月) (予定)	「呉市災害ボランティアセンター運営支援チーム」の派遣 (県社協及び県内の市町社協) 派遣人員 90名(15クール×4名、10クール×3名) 業務内容 呉市災害ボランティアセンターに係る天応サテライトの運営支援
---------------------------------------	---



2 生活福祉資金特例貸付支援

全国社会福祉協議会からの応援職員の派遣要請に基づいて広島県社会福祉協議会を支援

派遣期間	7月26日(木)から8月3日(金)の内、7日間(土日除く)
派遣場所	広島県呉市及び東広島市
活動内容・人員	特例貸付の事務支援(受付等) 4名(2名×2クール)

3 静岡県災害派遣福祉チーム【静岡DCAT(ディーキャット)】の派遣

派遣期間	7月23日(月)から平成30年8月6日(月)まで(15日間)
派遣場所	岡山県倉敷市真備町(菌小学校)
活動内容・人員	◇医療・保健・福祉等関係機関との連携 ◇相談コーナーの設置及び相談対応 ◇避難所での見回り、要配慮者の把握と支援等 12名(4名×3クール)

会員紹介コーナー

社会福祉しずおかでは、不定期で県社協の会員を紹介していきます。
今回は研修事業を積極的にご利用いただいている2事業所を紹介します。

○清水松風荘 住所:静岡市清水区折戸3丁目19番40号

養護老人ホーム清水松風荘は、昭和29年4月に合併前の清水市により清水市三保2201番地に設置されました。施設の老朽化により平成19年9月に現在地の折戸に新築移転し、現在に至っています。居室は全室個室で、入所定員は70人で現在34の方が生活されています。平成19年度までは市の直営でしたが、平成20年度からは特別養護老人ホーム白扇閣を運営している社会福祉法人清承会が指定管理者となり、清水松風荘の管理を行っています。



清水松風荘では、入所されている方の人格を尊重した個別処遇に努めており、クラブ活動と行事を充実させています。春の花見、夏の納涼会、秋の運動会など四季折々の行事を行うことで入所されている方の生活に張りを与えようと職員一同取り組んでいます。

清水松風荘の経営方針の一つに「職員の資質向上のため、積極的に研修会等に参加する」と定められており、これに基づき県社協が開催する各種研修に職員を参加させています。参加した職員からは「研修内容が具体的で分かりやすかった」、「福祉の仕事に携わった当初の思いを再認識した」といった感想が研修報告書の中で述べられています。これからも、県社協の研修を活用して職員の資質向上を図っていきたいと考えています。

○社会福祉法人みどりの樹 生活介護事業所ループ^{あゆむ}歩

住所:(さつき)浜松市浜北区中瀬648 (まつぼっくり)浜松市浜北区善地692



ループ歩は、「さつき」・「まつぼっくり」と言う屋号を持つ2つの事業所が別々の場所で活動しています。「さつき」は下請作業・クッキー作りを、「まつぼっくり」はパン・クッキー・ラスク作りと販売を、それぞれ頑張っています。「さつき」は作業の傍らお散歩やのんびりとした時間も大切にしており、「まつぼっくり」ものんびりする時間を大切にしながらも作業中心の働く生活介護です。

普段は別々の活動ですが、スポーツ大会や地元企業の夏祭りには一緒に参加しお互い協力し合って楽しく活動をしたり、法人全体でのお祭りやクリスマス会では事業所の枠を超えてみんなで盛り上がっています。

職員も専門的な知識を増やすため積極的に県社協の研修に参加させて頂き、日々の支援に結び付けられるよう努力しています。お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください!!

先覚者シリーズ 跡導(みちしるべ) ～静岡の福祉をつくった人々～

このたび県社協では、静岡県の社会福祉の礎を築いてこられた方々の生き方や社会福祉への情熱、業績をまとめることにより、今後の社会福祉発展の一助とするため、「先覚者シリーズ 路導」を更新(県社協ホームページ<http://www.shizuoka-wel.jp>参照)することといたしました。

本号は、静岡県社会福祉士会の初代会長 志田 利氏を御紹介いたします。

静岡県社会福祉士会 初代会長
～ソーシャルワーカー 組織の先覚者～
しだ とおる
志田 利氏



1 県庁内での福祉啓発活動

志田利氏は、昭和9年山形県で出生、昭和31年日本社会事業短期大学卒業後、山形県社協に3年勤務した。母校の四年制大学昇格に伴い編入学し、昭和36年日本社会事業大学(1期生)卒業後、静岡県に入職した。県自治研修所での初任者研修(1ヶ月合宿)で、仲間呼びかけ「三六(さぶろく)会」を結成した。以後年2回の例会と「文集さぶろく」を発行し、県庁内同志を通じ、福祉の情報発信に努められた。その後昭和54年、県民生部社会課社会係長に就任と同時に、部内に勉強グループ「明日の福祉を考える会」を発足させた。毎月1回の例会(時間外)にはゲストを招き討論、毎年文集を発行した。参加者にはその後人事異動で他の部局に移っても、この会で学んだ事により、「福祉思想の普及発展」に資する「ねらい」があった。後にこの会は人事課指定の「研究グループ」として奨励対象とされた。以上二つのグループの招集、司会や文集の編集発行等を志田氏が担当された。

2 「しずおか福祉セミナー実行委員会」の活動

昭和56年「国際障害者年」を契機に「ノーマライゼーション思想」の、一般社会への普及啓発が必要とされた。たまたま当時、日本社会事業大学では、地方の同窓会と協力し「地方学会」を開催する事となった。その為に「しずおか福祉セミナー実行委員会」をつくり、県社協の協力を得て「福祉シンポジウム」を開催した。シンポジウムは2年継続開催したが、昭和57年度よりは志田氏等の日本社会事業大学同窓生からの提案があり、「静岡の福祉をつくった人々」の評伝を毎年3～4人ずつ選び、そのプロフィール集を出す事になった。

(続く)

静岡県ボランティア協会相談役

元静岡県西部民生事務所長 神田 均氏 執筆

※紙面上、全ての内容を掲載することができませんので、全文は県社協ホームページ(<http://www.shizuoka-wel.jp>)及び県社協メルマガ(登録申し込みはこちらへ:spcsw@shizuoka-wel.jp)に掲載いたします。是非、御覧ください。

静岡県社会福祉人材センター研修課主催の研修会のお知らせ

平成30年11月開催分をお知らせします。

★ラクラク申込み「WEB サービス」(会員対象)を御利用ください!→WEB サービスサイト <http://www.shizuoka-wel.jp/learn/information/>

研修NO.	研修名	開催日	会場	対象者	内容・講師	受講料 会員(非会員)
1	福祉職員キャリアパス対応 生涯研修課程 初任者コース(東部)	11/29 12/17~18	三島商工 会議所	初任者(概ね入職後1 ~2年程度の職員)	・サービス提供者、チームの一員としての基本の習得 ・福祉職員が自らのキャリアデザインを描く 講師:福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程指導者	1,300円 ※テキスト代
7	福祉職場のチーム力向上講座	11/5	シズウエル	社会福祉施設・介護 保険事業所等に勤務 する方	中堅職員に求められる組織人としての役割行動や、チーム力向上の ための知識、技能の習得 講師:日本女子大学 人間社会学部社会福祉学科 教授 久田 則夫 氏	4,000円 (6,000円)
51	快適なシーティング講座	11/6	シズウエル	社会福祉施設・介護 保険事業所等に勤務 する方	生活場面における正しい座り方の技術や 拘縮予防の方法などを学ぶ 講師:(有)でく工房 取締役会長 光野 有次 氏	4,000円 (6,000円)
35	口腔のケア講座	11/19	シズウエル	社会福祉施設・介護 保険事業所等に勤務 する方	高齢者や障害のある方への口腔のケアに必要な知識・技術の習得 講師:認定歯科衛生士 小宮山 ひろみ 氏、佐藤 美紀 氏	4,000円 (6,000円)
67	福祉職員のための ヒヤリハット・ アクシデントセミナー	11/22	シズウエル	社会福祉施設・介護 保険事業所等に勤務 する方	福祉サービスの特性を踏まえリスクマネジメントの基本的な視点と、 ヒヤリハット・アクシデントの学習により利用者の事故発生の防止を学ぶ 講師:聖隷クリストファー大学 教授 川村 佐和子 氏 東京都医学総合研究所 主席研究員 原口 道子 氏	4,000円 (6,000円)
40	車いすメンテナンスセミナー	11/30 (午前)	シズウエル	社会福祉施設・介護 保険事業所等に勤務 する方	車いすを利用する方が快適に過ごせるよう、 車いすの調整とメンテナンスを学ぶ 講師:井出商会 代表 井出 容敬 氏	3,000円 (5,000円)
39	快適なおむつの 使い方講座	11/30 (午後)	シズウエル	老人福祉施設・介護 保険事業所等に勤務 する方	介護現場における紙おむつ装着に関する知識や技術の習得 講師:花王プロフェッショナル・サービス(株)中部支社 メディカルサポートグループ マネージャー 西村 恵 氏	3,000円 (5,000円)

◎最新の「研修開催の情報」を、電子メールで事業所様にお知らせします! kenshu@shizuoka-wel.jp に ①事業所名 ②事業所種別 ③電子メールアドレスを
入力の上、件名「研修開催の情報 メール受信希望」として送信してください。なお、2か月経過しても配信がない場合は、下記研修課まで御連絡ください。

☆詳しくはホームページをご覧ください 問い合わせ先:研修課 電話 054-271-2174

◎県社協が行う自主研修には、皆様の会費を充当しております。

平成30年度「老人の日・老人週間」キャンペーン

標語:みんなで築こう 安心と活力ある健康長寿社会

キャンペーンが目指す6つの目標

- (1)すべての高齢者が安心して自立した生活ができる、
保健・福祉のまちづくりを進め、ふれあいの輪を広げよう。
- (2)高齢者の知識、経験や能力をいかした、就労・社会
参加・ボランティア活動を進めよう。
- (3)高齢者の生きがい・健康づくり、介護予防への取り
組みを進めよう。
- (4)高齢者の人権を尊重し、認知症高齢者への支援の
あり方や介護問題等をみんなで考え、高齢者や介
護者を支える取り組みを積極的に進めよう。
- (5)高齢社会における家族や地域社会等の役割を理解
し、多世代がお互いに協力して安心と活力ある健
康長寿社会をつくろう。
- (6)減災や防災への取り組みに関心を持ち、日頃から
地域でのつながりを築こう。



9月15日は「老人の日」、9月15日から21日までの1週間は「老人週間」です。

- 主唱 内閣府/消防庁/厚生労働省/全国社会福祉協議会/全国老人クラブ連合会/長寿社会開発センター/日本医師会/
日本歯科医師会/日本薬剤師会/日本看護協会/日本社会福祉士会/日本介護福祉士会
- 協賛 NHK/日本新聞協会/日本民間放送連盟

YAMAHA
感動を・ともに・創る

私たちは、音・音楽を原点に培った技術と感性で、新たな感動と豊かな文化を世界の人々とともに創りつづけます。

ヤマハ株式会社

ありがとうございました

県社協への寄附金

●日立グループ「親切会」中部支部様から本会ふれあい基金へ100,000円のご寄附をいただきました。(6月28日)

静岡県社会福祉協議会ふれあい基金
寄附金贈呈式

中央左) 親切会中部支部 支部長 宮部 龍二様
中央右) 本会 常務理事 松浦 康夫

施設のメンテナンスを効率良い専門車両で応援します。

カーテン出張クリーニング

特許ランドリー車

カーペットタイル出張丸洗い

特許出願中

ブラインド・ロールスクリーン出張クリーニング

洗浄前 / 洗浄後

株式会社三ナフ 静岡県静岡市葵区産女 1060-1
フリーダイヤル-ミナフにハロー- 0120-370286 fax054-295-9003

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成30年度

ボランティア活動保険

全国200万人 加入!!

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険 検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金額		Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	1,400万円
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	1,400万円(限度額)
	入院保険金日額	6,500円	10,000円
	手術保険金	65,000円	100,000円
	入院中の手術	65,000円	100,000円
	外来の手術	32,500円	50,000円
賠償責任の補償	通院保険金日額	4,000円	6,000円
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ	
	葬祭費用保険金(特定感染症)	300万円(限度額)	
	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)	

年間保険料(1名あたり)		
タイプ	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	350円	510円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)	500円	710円

保険金をお支払いする主な例

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)
送迎サービス補償 (傷害保険)
福祉サービス総合補償 (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 (引当幹事) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 保険会社) TEL: 03 (3349) 5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03 (3581) 4667 FAX: 03 (3581) 4763
 営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
 この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(S)JNK17-16970 2018.1.9作成